



2020年度 第5回 WE講座

「東日本大震災から10年」～原発被災者の思いを語り継ぐために

ドキュメンタリー映画「ひとと原発～失われたふるさと」上映会

《復興事業が浮き彫りにする光と影》

「復興」という名に彩りをそえるように、見栄えのいい水産工場、道の駅、広大な牧場などの建設ラッシュに沸く浪江町。その国が主導する復興事業は多くの浪江町民の想いとかけ離れたもので、さらびやかな虚飾の影で、今も避難生活をつづけ、被災で負った深い苦しみを抱えながら生活している方も多くいます。そして、自殺等の震災関連死の数は浪江町だけでも約450人。

マスコミ等がふれない影の部分に、じっと目を凝らし、聞こえぬ声に耳を傾けなければ、原発事故がもたらした深い傷は見えません。

《未来に語り継ぐもの》

浪江町に戻ったもと住民は約5パーセント。

大多数の住民が帰還しない理由は、放射線の恐怖、コミュニティーの破壊によって帰っても知人や友人がいないこと、長い避難生活によって避難先で生活基盤ができてしまったことなどがあげられます。

地震や津波の被害とは違い、原発事故は人の生活基盤を根こそぎ奪い、ふるさとから遠いやったのです。

悔しい……。

ふるさとを失った浪江町の多くの方が口にする言葉です。この言葉の意味を深く理解し、二度とこのような過ちを繰り返さないためにも、原発による電気を享受してきた我々は、決して風化させることなく、次の世代にしっかりと語り継ぐ責任があります。その一助となるよう、微力ですが、映画「ひとと原発～失われたふるさと」を制作しました。

いちばん大切なのは、ひとの生命です。

- ★日時：3月11日（木）12:30開場
- ★会場：青葉公会堂（横浜市青葉区市ヶ尾町31番地4）
オンライン（zoom）
- ★「ひとと原発～失われたふるさと」
13：00～上映 開始の10分前にご着席ください
14：46 黙祷
15：00～16：00 対談
板倉監督×伊藤まり(WE21ジャパン青葉代表・3.11浪江町で被災)
- ★定員：会場30名 オンライン30名 ★参加費：無料
- ★申込み締め切り：3月6日（土）
- ★問合せ メール：maritonamie@outlook.jp

TEL / FAX : 045-915-9606

※事前の申し込みが必要です。
メールまたはFAX、こちらから→
前日までに接続情報をお送りいたします。



板倉真琴

脚本家・映画監督

